平成３０年１月９日（火）　全校集会　校長講話

１７日間の冬休みが終わりました。新しい年を迎え、自分の課題と向き合い、これから実行したいことを考えることはできましたか。今日は１月９日。新年を迎え、約１０日あまりが過ぎました。１月も残すところ約３週間です。「１月は行く、２月は逃げる、３月は去る」と言われます。１月から３月までの後期後半の授業日は、３年生が４５日、１・２年生が５２日と、１年間の中で最も短い授業期間です。しかし、３年生にとっては、自分の志を実現させるための大切なプロセスである高校入試があり、９年間の義務教育を修了し、都路から外の世界へと羽ばたく、人生の転機となる期間です。１・２年生にとっても、かけがえのないこの１年の成果と課題を振り返るとともに、進級を見据えた準備をする大切な期間です。学校にとっても、別離の寂しさと新たな出会いへの期待を膨らませながら、新たなスタートに備える重要な期間となります。都路中学校の生徒と先生方、いつも温かく支えてくださる保護者や地域の皆さんが「チーム都路」となって、「志を育み、学び合い高め合い、信頼され愛される学校」を後期後半も目指していきましょう。

「用意された環境を歩くのは好きじゃない。自分で選び失敗も成功も受け入れる。」これは、個人のオリンピック種目では日本女子初の世界記録を出した、スピードスケートの小平奈緒（こだいらなお）選手の言葉です。小平選手は、スケートの盛んな長野県茅野市で生まれ、３歳でスケート靴を履きました。高校卒業後は、地元の信州大学へ進学しました。二度のオリンピック出場を果たしましたが、個人種目の表彰台を逃すと、2014 年から単身でスピードスケート大国のオランダへ渡りました。２シーズンにわたってプロチームに加わり、辞書を片手にスピードスケートを学びました。小平選手は、背中を丸めて、低い腰の位置から刃全体で氷をとらえてスケーティングします。練習仲間がオランダ語で、「怒れる猫」と呼ぶしなやかで力強い滑りに、オランダでの努力の成果が現れています。「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。」２月の平昌（ピョンチャン）オリンピックへ向けて、インド独立の父ガンジーの言葉を引き、小平選手は抱負を述べました。成長への飽くなき欲望と感性の幅の広さが、３０歳を超えてなお進化を続ける小平選手の原動力となっています。

小平選手が自ら単身でオランダへ渡ったように、自分の普段いるところとは異なる環境に身を置くことは重要です。自分とはこんな人間だろうと思い込んでいるところに、いろいろな価値観やものの考え方が入ってきて、自分が拡張されていく。そんな学びの機会が、中学生の皆さんにもできる限りたくさんあるといいと考えています。「昨日の自分を超えてゆけ」１年生も、２年生も、そして３年生も、飽くなき「自分への挑戦」によって、実り多い一年にしてください。